

宮崎大学教育学部・教育学研究科

## 平成 29 年度外部評価委員会報告書

宮崎大学教育学部・教育学研究科・外部評価委員会  
平成 30 年3月

## 平成 29 年度 宮崎大学教育学部・教育学研究科外部評価委員会概要

日 時:平成 30 年3月2日(金)9:30～11:00

場 所:教育学部 第一会議室

### 出席者

#### 委員

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 委員長:鹿児島大学教育学部長                | 土田 理  |
| 委員:宮崎市教育委員会学校教育課・課長補佐         | 田口 毅  |
| 委員:宮崎県教育庁学校政策課義務教育・学力向上担当指導主事 | 米満 智博 |
| 委員:連携協力校中学校代表 宮崎市立大塚中学校長      | 河野 好宏 |
| 委員:宮崎大学教育学部 附属学校 教育後援会        |       |
| 全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会 理事長      | 久保 眞司 |

### 宮崎大学から

|                  |        |
|------------------|--------|
| 教育学部長            | 添田 佳伸  |
| 大学院教育学研究科長       | 幸 秀樹   |
| 副学部長[評価担当]       | 中山 迅   |
| 副学部長[研究担当]       | 三輪 佳見  |
| 副学部長[教務担当]       | 戸ヶ崎 泰子 |
| 評議員              | 石川 千佳子 |
| 附属教育協働開発センター長    | 新地 辰朗  |
| 附属学校園統括長         | 河原 国男  |
| アドミッションオフィス長     | 山田 利博  |
| 教職実践基礎コース代表      | 遠藤 宏美  |
| 学部・研究科評価委員会委員    | 秋山 博臣  |
| 学部・研究科評価委員会委員    | 米村 敦子  |
| 学部・研究科評価委員会委員    | 金谷 義弘  |
| 学部・研究科評価委員会委員    | 半田 健   |
| 教育学部・地域資源創成学部事務長 | 坂元 博巳  |
| 総務担当係長           | 鎌田 早苗  |
| 教職大学院担当係長        | 濱崎 麻紀子 |

### 委員会次第

1. 開会の辞
2. 学部長挨拶
3. 出席者紹介
4. 議長紹介
5. 学部と大学院における教員就職状況向上の取り組み  
(教育学部副学部長(教務担当) 戸ヶ崎 泰子)
6. 教育学部と教職大学院を結ぶ 6 年一貫の教員養成の取り組み  
(教職実践基礎コース代表 遠藤 宏美)
7. 教師みらいセミナー (アドミッションオフィス長 山田 利博)
8. 教職大学院の改革に向けての方向性 (教育学研究科長 幸 秀樹)
9. 教育協働開発センターの取り組み (附属教育協働開発センター長 新地 辰朗)

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 10. 附属学校の取り組み | (附属学校園統括長 河原 国男) |
| 11. 講評        | (外部評価委員)         |
| 12. 閉会の辞      |                  |

### 評価項目及び評価のポイント

教育学部及び大学院教育学研究科の取り組み状況について、資料をもとに大学側から説明し、委員から意見をもらった。

#### 資料

1. 学生支援活動  
学部と大学院における教員就職状況向上の取り組み (資料 1-1～1-4)
2. 教育活動  
教育学部と教職大学院を結ぶ 6 年一貫の教員養成の取り組み (教職実践基礎コース)  
(資料 2-1、2-2)
3. 学生確保  
教師みらいセミナー (資料 3)
4. よりよい教育のための改革  
教職大学院の改革に向けての方向性 (資料 4)
5. 社会貢献  
教育協働開発センターの取り組み (資料 5)
6. 附属学校  
(1) 大学全体の中の附属学校の位置づけの強化  
(2) 附属学校の地域連携 (資料 6-1～6-5)

### 評価のポイント

1. 学生支援活動: 優れた人材を教育界に送り出すための体系的な就職支援になっているか
2. 教育活動: 学部の教育課程は、優れた人材を学部と大学院を通して 6 年間で育成するためのものになっているか
3. 学生確保: 学生確保の取り組みは適切であるか
4. よりよい教育のための改革教育: 特別支援教育を重視する教職大学院改革の方向性は適切であるか
5. 社会貢献: 教育協働開発センターを中心とする社会貢献の取り組みは適切であるか
6. 附属学校: 附属学校の取り組みは地域の期待に応えるものになっているか

### 主な質疑

- 教員就職状況向上の取り組みについての説明に対して、宮崎県教員採用試験合格者における占有率の現状と対策についてについて質問があり、採用枠の大幅増があったため、合格者数は増えたが占有率が上がりにくい現状や、専門学校との連携などが功を奏していることなどについて回答と説明があった。
- 平成 28 年度に新設された教職実践基礎コースにおける教育学部と教職大学院を結ぶ 6 年一貫の教員養成の取り組みについての説明に対して、まず、コースの取り組みの一つとしての教育問題についてのディベートやプレゼンテーションの内容についての質問があり、地域の課題となっている「土曜授業」や学力問題などについて取り上げたことが説明された。また、フィールドワークについての質問があり、僻地校や小規模校でのきめ細かな教育に対する学生の関心が高まることなどが報告された。さらに、コースの学生が教職大学院の授業を受講

したときの単位認定についての質問があったが、これについては、受講資格や単位認定の基準などについてこれから検討して、今の学生が4年生になるまでに決める計画であることが説明された。

- 学生確保の観点から「教師みらいセミナー」についての説明があり、最近の社会で話題になっている教職の負担に対する負のイメージへの対応についての質問があった。これに対して、教職の実際の姿を伝えることの大切さが述べられた。
- 教職大学院の改革に向けての方向性についての説明があり、特別支援教育の柱を立てることに向けての対応について質問があった。これに対して、研究者教員の新規ポストを特別支援教育に代えたことや、実務家教員のみなし専任の3名のうちの1名を特別支援教育に詳しい教員に充てたことなどが説明された。さらに、特別支援教育に関心を持つ学生の増加傾向があるかどうかについて質問があり、特別支援コース以外のコースの学生にも関心をもって進路を特別支援学校の教員に向ける例もあることが紹介された。これについて、宮崎市教育委員会から、特別支援教育は最重要課題の一つであり、宮崎大学の取り組みに感謝の意が表明された。
- 教育協働開発センターの取り組みについて説明があり、フォローアップ事業の成果について質問があった。これについて、学校長に対するヒアリングにおいて高い評価をもらっていることが報告された。さらに、フォローアップ事業が学校側に高にメリットがあることを認めた上で、大学にとってのメリットは何であるかについての質問があった。これについて、教職大学院の教員チームの指導力の向上につながることで、宮崎大学教職大学院への認知と理解が進むことがメリットであることが説明された。
- 附属学校の取り組みについて説明があり、貧困の連鎖を断ち切るという観点から、入試の枠の中に要保護、準要保護家庭の子どもたちを入れることについての検討の可能性について質問があり、今後検討したい旨の回答があった。また、附属学校の存在意義についての社会への発信のあり方や九州内の教育学部の連携が重要であるとの指摘が議長からあった。

### 主な講評

- 学部と教職大学院における教育・研究・教員養成の取り組みは、おおかた理想的な方向に進んでいる。
- 養成・採用・研修の観点から、前段階、採用の入り口、そしてフォローアップが非常によくつながっている。
- 学生の教職へのモチベーションを上げている。さらに、「自分が教師になることで学校、ひいては子どもたち、地域に何ができるのか」まで伝わっている学生もおり、宮崎市と大学とでいっしょになって宮崎の子どもたちのためにできることをやっていきたい。
- 講師不足が深刻であり、教職の本来の魅力をもっとアピールしてもらいたい。
- 特別支援教育へのニーズが高く、宮崎大学の取り組みは、非常にありがたい。
- 教員の研修機会の確保の観点で、附属学校を頼りにしている。
- 教員養成には地域性があるので、大学間でも継続的に知恵を出し合いたい。

(委員名) 外部評価委員A

① とてもそう思う  
② そう思う  
③ そう思わない  
④ まったくそう思わない

1. 下記の各評価項目について当てはまるものをお選びください。

- (1) 学生支援活動：優れた人材を教育界に送り出すための体系的な就職支援になっているか
- (2) 教育活動：学部の教育課程は、優れた人材を学部と大学院を通して 6 年間で育成するためのものになっているか
- (3) 学生確保：学生確保の取り組みは適切であるか
- (4) よりよい教育のための改革教育：特別支援教育を重視する教職大学院改革の方向性は適切であるか
- (5) 社会貢献：教育協働開発センターを中心とする社会貢献の取り組みは適切であるか
- (6) 附属学校：附属学校の取り組みは地域の期待に応えるものになっているか

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|   | ○ |  |  |
|   | ○ |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |

2 今後、改善を要する事項

小中一貫教育に対しての取組について、さらに継続した情報発信をお願いします。

3 その他、ご意見があればお聞かせください。

大変参考になりました。

今後ともよろしくお願いいたします。

(委員名) 外部評価委員B

① ② ③ ④  
 と とても そう まったく  
 ても そう 思わ  
 そう 思 わ  
 思 う ない  
 う う い

1. 下記の各評価項目について当てはまるものをお選びください。

- (1) 学生支援活動：優れた人材を教育界に送り出すための体系的な就職支援になっているか
- (2) 教育活動：学部の教育課程は、優れた人材を学部と大学院を通して 6 年間で育成するためのものになっているか
- (3) 学生確保：学生確保の取り組みは適切であるか
- (4) よりよい教育のための改革教育：特別支援教育を重視する教職大学院改革の方向性は適切であるか
- (5) 社会貢献：教育協働開発センターを中心とする社会貢献の取り組みは適切であるか
- (6) 附属学校：附属学校の取り組みは地域の期待に応えるものになっているか

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |

2 今後、改善を要する事項

学生確保の取組について、さらに教員の仕事が魅力的なものであるということを伝えてほしい。

3 その他、ご意見があればお聞かせください。

増えつつける学校の職務、その中で働き方改革の推進も求められている。  
 私見だが、校長会としても宮崎大学からアドバイスをいただければと思いました。

(委員名) 外部評価委員C

① ② ③ ④  
 と とても そう ま  
 ても そう う っ  
 そう 思 っ  
 思う っ  
 う う い  
 ない

1. 下記の各評価項目について当てはまるものをお選びください。

- (1) 学生支援活動：優れた人材を教育界に送り出すための体系的な就職支援になっているか
- (2) 教育活動：学部の教育課程は、優れた人材を学部と大学院を通して6年間で育成するためのものになっているか
- (3) 学生確保：学生確保の取り組みは適切であるか
- (4) よりよい教育のための改革教育：特別支援教育を重視する教職大学院改革の方向性は適切であるか
- (5) 社会貢献：教育協働開発センターを中心とする社会貢献の取り組みは適切であるか
- (6) 附属学校：附属学校の取り組みは地域の期待に応えるものになっているか

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |

2 今後、改善を要する事項

- ・教職としてのキャリアを育てていく取組(自分にとって何のために、何を学ぶかを自覚するという面で)
- ・特別支援教育に関して、地域の学校と連携した取組の拡充
- ・フォローアップ研修における学校の理解と効果的な取組

3 その他、ご意見があればお聞かせください。

(委員名) 外部評価委員D

① ② ③ ④  
 と そ そ ま  
 て そ う た  
 も そ う く  
 う 思 思 そ  
 思 う わ  
 う い ない

1. 下記の各評価項目について当てはまるものをお選びください。

- (1) 学生支援活動：優れた人材を教育界に送り出すための体系的な就職支援になっているか
- (2) 教育活動：学部の教育課程は、優れた人材を学部と大学院を通して6年間で育成するためのものになっているか
- (3) 学生確保：学生確保の取り組みは適切であるか
- (4) よりよい教育のための改革教育：特別支援教育を重視する教職大学院改革の方向性は適切であるか
- (5) 社会貢献：教育協働開発センターを中心とする社会貢献の取り組みは適切であるか
- (6) 附属学校：附属学校の取り組みは地域の期待に応えるものになっているか

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|   | ○ |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
|   | ○ |  |  |

2 今後、改善を要する事項

今後の取組の中で、課題が生じたものを1つ1つ改善していただければ、有り難いです。

3 その他、ご意見があればお聞かせください。

・養成(6年間)・採用(入口)・研修(フォローアップ)まで一貫した取組、幅広く(工夫)も1つ1つがきめ細やかな手立てとして、宮崎大学教育学部・教育学研究科が組織として大きく機能されていることがとてもよく理解できました。

・特別支援教育を含めた現代的な課題、要請への対応、方向性も明確であり、特に本県への就労、貢献に軸がある点は有り難く、重要な拠点として共に連携をお願いいたします。



(委員名) 外部評価委員E

① ② ③ ④  
 ① とてもそう思う  
 ② そう思う  
 ③ そう思わない  
 ④ まったくそう思わない

1. 下記の各評価項目について当てはまるものをお選びください。

- (1) 学生支援活動：優れた人材を教育界に送り出すための体系的な就職支援になっているか
- (2) 教育活動：学部の教育課程は、優れた人材を学部と大学院を通して 6 年間で育成するためのものになっているか
- (3) 学生確保：学生確保の取り組みは適切であるか
- (4) よりよい教育のための改革教育：特別支援教育を重視する教職大学院改革の方向性は適切であるか
- (5) 社会貢献：教育協働開発センターを中心とする社会貢献の取り組みは適切であるか
- (6) 附属学校：附属学校の取り組みは地域の期待に応えるものになっているか

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|   | ○ |  |  |
|   | ○ |  |  |
|   | ○ |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |
| ○ |   |  |  |

2 今後、改善を要する事項

地理的なハンディを克服し、より身近な大学・教育学部として、県民・市民に認識される事が引き続き重要かと思います。

3 その他、ご意見があればお聞かせください。

より一層のご発展をご祈念します。